

ホタル観察会を実施しました

～第1回千波湖環境学習会～

「ホタルを観察しよう」をテーマに、今年度1回目の千波湖環境学習会を6月4日に開催しました。

今年も大勢のご家族に参加していただき、大盛況となりました。

集合時間から暗くなるまでの間に、講師からホタルの生態などについて説明があり、参加者は興味深く耳を傾けていました。説明の後、ゲンジボタルとヘイケボタルの違いや、オスメスの見分け方、どんなところに生息していて、何を食べて生きているの



か。ホタルを守るために必要なことは何なのかといった、ホタルについてより学び考えることができるクイズを行いました。クイズに正解しようと元気よく手を挙げる子どもたちに会場は大盛り上がり。正解した子どもには、景品としてレジャーシートをプレゼントいたしました。

クイズも終わった頃、日も落ちて薄暗くなった会場で、ちらほらとホタルが飛び始めました。「ホタルに触らない、連れて帰らない、懐中電灯などでホタルを照らさない」など、観察会にあたっての注意事項を事務局から話し、4グループに分かれて観察会を開始しました。

森の中で、まばらにゆっくりと点滅を繰り返すホタルを見つけた途端、大人も子どももその方向を指差して周りに伝えあっていました。みんながホタルを目に焼き付けて帰れるように、見えるポイントを譲りながらゆっくりと回り、無事に観察会を終えることができました。

観察会の終わりには、参加いただいた子どもたちにヤクルトを配り、アンケートを実施いたしました。



あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：一般社団法人水戸市公園協会様

飲み物：水戸ヤクルト販売株式会社様

文 具：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック様

お菓子：東部燃焼株式会社様

みんなで協力してビオトープを作りました！

～第2回千波湖環境学習会～

6月5日に、本年度第2回目となる千波湖環境学習会を開催しました。毎年6月の環境月間に水戸市環境フェア関連事業として、前日のホタル観察会に続き、ビオトープづくり、千波湖の外来種駆除、千波湖周辺の昆虫の観察会などを実施しています。

当日は天候にも恵まれ、絶好の学習会日和となりました。5日に実施する学習会の1本目となるビオトープづくりには、地域の小学生を中心に118名の参加がありました。

今回のビオトープ作りのために準備した植物は、ヨシやガマなど合わせて約3,000本となりました。これらの植物は、同じ偕楽園公園内でホタルの再生活動を行っているホタルネットワーク mito様のご協力をいただきながら、周辺の湿地帯でのホタルの生息地を守るため、間引きを行った植物を採取してきたものになります。

千波湖にビオトープを作る活動は平成24年度に始まり、今年で11回目の活動になります。こ

れまでに造成したビオトープは、1周約3kmの千波湖の1割に当たる300mとなり、昨年度からは環境の変化により陸地化してしまった過年度に造成したビオトープのメンテナンスも行っています。

参加者全員が力を合わせ、協力して作業をしていくことで無事にビオトープを作ることができました。服が泥で汚れるのも気にせず、千波湖の環境をよくしようと必死に作業する子どもたちの姿を見て、今後の千波湖は、よりよい環境となり、生き物の生息地としてもさらに豊かになっていく期待の持てる結果となりました。

ビオトープとは、ドイツ語で生物を意味するバイオ(bios)と場所を表すトープ(topos)を合わせた言葉で、多様な生き物が生息する空間という意味があります。水辺の豊かな自然環境は多くの生き物を育み、水際にヨシなどの湿生植物を植栽することにより、窒素やリンなどの水中の栄養分を吸収し、水質を良くする効果も併せて得られます。



集合写真



作業する子どもたち

挨拶及び提供品等でご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：千波湖水質浄化推進協会様

飲み物：有限会社沼田クリーンサービス様 株式会社ジーエスケー茨城様
有限会社リビング館ホンダ様

文 具：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック様
株式会社いばらき環境改善様

お菓子：東部燃焼株式会社様

外来種を調べました ～第3回千波湖環境学習会～

6月5日、水戸市環境フェア 2022 関連事業として午前中に行われたビオトープづくりから引き続き、第3回千波湖環境学習会として「外来種を調べよう」を開催しました。この日は外来種を釣り上げることを目標としたためか、子どもたちだけでなくお父さんもやる気満々で挑んでくれました。



まず、外来種捕獲の前に、千波湖に生息している外来種や外来種により在来種の生息が脅かされていることなどを簡単に説明しました。子どもたちは、早くわなを引き上げて、何が捕獲されているか気になって仕方がない様子、早速、わなの回収に取り掛かりました。

前日にたくさんのカゴ罟と、2本のはえ縄を仕掛けていました。魚食性の外来種を捕獲するため、練餌のほかに、イカの切り身や小魚、ドッグフードも餌にしています。

期待のはえ縄のほうには、なんと小さなチャンネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）とスッポンがかかっていた。スッポンは在来種ですが、アメリカナマズは外来種です。参加者もターゲットを捕まえたと知るや大盛り上がり。

今度は自分たちで捕まえたい。そう思った子どもたちは、スタッフの案内で釣竿を受け取ると、針の先にイカをつけて千波湖に向かいました。外来種フィッシングの始まりです。

狙いはアメリカナマズ。なんと、参加者の男の子がはえ縄にかかったアメリカナマズよりも大きな個体を釣り上げました。これにはスタッフも驚きを隠せませんでした。このような学習会をきっかけに、自然や環境に視野を広げて欲しいと思います。



今回、有限会社リビング館ホンダ様、逆川エコクラブ様、株式会社ジーエスケーいばらき様、有限会社沼田クリーンサービス様よりお飲み物を、水戸ホーリーホック様からホーリーノートを、株式会社いばらき環境改善様から文具を、東部燃焼株式会社様からお菓子をご提供いただきました。ありがとうございました。また運営に協力いただいた方々にお礼申し上げます。

あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：逆川子どもエコクラブ様

飲み物：有限会社リビング館ホンダ様 逆川エコクラブ様
株式会社ジーエスケー茨城様 有限会社沼田クリーンサービス様

文 具：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック様
株式会社いばらき環境改善様

お菓子：東部燃焼株式会社様

ムシムシ探検とオオキンケイギク除去

～第4回千波湖環境学習会～

「外来種を調べよう」に引き続いて、第4回千波湖環境学習会を開催しました。テーマは茨城生物の会様との共催で「ムシムシ探検とオオキンケイギク除去」、親子324名の参加がありました。

ハナミズキ広場での開会式のあと、「ムシムシ探検」は隣のふれあい広場、「オオキンケイギク除去」先ら側の川岸へ移動しての学習会となりました、

ムシムシ探検に参加した子供たちはまずふれあい広場の東側で20'くらい自由に昆虫採集をし、一度集合して採れたムシたちの名前の説明などを茨城生物の会の井上先生や当協会職員がおこない、後半は広場西側で昆虫採取を行いました。

子供たちは夢中になって、思い切り走り回っての昆虫採集となりました。

キタキチョウ、ベニシジミなどのチョウの仲間や、ショウリョウバッタ、ツチイナゴなどのバッタの仲間、また昆虫ではないのですが、陸上に上がったばかりの小さなアカガエルがたくさん見つかかり、子供たちが歓声を上げながら、追いかけていました。

オオキンケイギク除去はハナミズキ広場から千波湖湖岸を通して、オオキンケイギクの生えている川岸まで移動しての抜き取り体験でした。現地地、茨城生物の会の佐々木先生と茂垣先生からオオキンケイギクは環境省に特定外来生物に指定されていること、除去するため

には根事抜き取ること、抜いたものは種などが飛び散らないように袋に入れること、などの説明を受け、川べりで除去作業をして、大きなゴミ袋5袋分を集めました。



開会式に集まった子供たち



広場中を駆け回っての虫採り



川岸でのオオキンケイギク除去

あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

共 催：茨城生物の会

ノート：株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック様

文 具：株式会社いばらき環境改善様 お菓子：東部燃焼株式会社様

飲み物：有限会社リビング館ホンダ様、有限会社沼田クリーンサービス様

逆川こどもエコクラブ様、株式会社ジーエスケー茨城様

千波湖内に入って「魚」たちを調べました

～第5回千波湖環境学習会～

第5回千波湖環境学習会を7月31日に開催しました。開催時の気候は、気温31.9～34.5℃、風速3.6～4.7m/s（気象庁HPより）でとても暑く、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため外出自粛が続いていましたが、子どもたちが夏休み中ということもあり、多くの家族に参加していただき、親子合わせて約180名の参加がありました。

※ 千波湖の西側（放流橋から西側）は、通常、生物類の採取や魚釣りが禁止されていますが、特別な許可により、本学習会では実際に千波湖に入って生物を採取することができます。



間隔をあけて魚類等を採取する子どもたち



採取した生き物を取り出す様子

水生生物の採取・観察については、子どもたちが千波湖の浅瀬に入って、手網を使って生き物を採取したり、親水デッキ付近に設置した漁獲用の罟に掛かった水生生物を観察したりしました。

最初に、当協会の講師から子どもたちに、学習会の進め方、水生生物（魚類、エビ等の甲殻類など）の採取の仕方、注意事項等の説明があり、生物の採取に当たっては、講師やボランティアの大人達が子どもたちを常に見守りつつ、生物の取り方を教えたり手伝ったりしていました。

例年はボートに乗って仕掛けていた罟を回収するのですが、昨年に引き続き今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボートに乗らず親水デッキ付近に設置した罟を回収することになりました。多くの子供達が千波湖に入って魚を採取し、主に低学年の子どもたちは漁獲用の罟を引き揚げました。

今年も千波湖の水は、植物プランクトン（アオコ）が多く発生したため、緑っぽい色をしていて水の底が見えなく、入るのが少し怖く感じましたが、子どもたちは、網と採取容器を手を持って、元気よく水辺に入っていました。膝くらいまで水に浸かり、熱心に魚を探しながらも、ソーシャルディスタンスに気を配りながら行いました。

千波湖周辺の昆虫を調べました

～第6回千波湖環境学習会～

「千波湖周辺の昆虫を調べよう」をテーマに、今年度6回目の千波湖環境学習会を8月21日に開催しました。

今年も、新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加者を親子で100名程度に限定しての学習会となりました。親水デッキでの開会式の後、ふれあい広場を經由して少年の森へ向かうコースで行いました。

ふれあい広場で歓声を上げながらバッタやチョウを追いかけたり、息を殺して木にとまっているセミを捕ろうとしたり、みんな頑張っていました。

次に少年の森に移動し、カブトムシやクワガタなど甲虫の仲間を狙いましたが、朝のうちにカラスたちが食べた残骸しか見つかりませんでした。

また今回の学習のテーマにしたセミの抜け殻集めでは虫かごいっぱい抜け殻を集めた子どもたちもいました。

千波湖周辺ではアブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホウシ、ニイニイゼミの5種類のセミが生息しています。子どもたちの中には、その5種類全部の抜け殻を集めた子もいました。

セミの抜け殻集めのときには、林の場所によって出てくるセミの種類の違いがどうかを調べると面白いことを説明し、抜け殻がついている場所と地面の距離を測ってみると、羽化するために長い距離を歩く種類とあまり歩かない種がいることを学びました。

蝶は、キタキチョウ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハなどが見られました。

最後は、少年の森の南側で飲み物をもらって解散しました。暑い中の学習会でしたが、楽しい思い出になったと思います。



ふれあい広場で
チョウやバッタを追いかけました



少年の森で
セミの抜け殻調べをしました

提供品のご協力をいただきました、ありがとうございます。

消毒スプレー：花王鹿島工場様

逆川の生き物を調べました

～第7回千波湖環境学習会～

9月10日、第7回千波湖環境学習会を逆川緑地前の逆川の小門橋付近で開催しました。当日は天気も良く、絶好の学習会日和で、多くの方に足を運んでいただきました。

観察会当日は元市議会議員の小泉康二様や木本信太郎様、水戸市役所のご担当者様、東部燃焼株式会社様からご挨拶をいただきました。そして逆川こどもエコクラブのメンバーには一般参加者を指導する立場となってもらい、逆川の生き物を観察しました。

開会式では、川で遊ぶことの楽しさを教えると同時に、水辺では思わぬ危険があることを話しました。説明が終わったら、魚とり網と飼育容器を配布し、今回の学習会は流れのある川での開催のため、子どもの参加者にライフジャケットを着用してもらいました。

川に入る準備ができたなら、逆川に入って魚や水生生物の採取が始まりました。はじめはなかなか生き物を採取できない参加者もいましたが、講師や周りの参加者に教えてもらったり、場所を移動したりしながら生き物を採るコツを覚えて、だんだんと生き物を採取できるようになりました。

最後に、みんなで採取した生き物の観察や逆川の水辺の生き物に関するクイズなどを行いました。学習会の開始前はどれくらい生き物が採れるか心配していたのですが、参加した子どもたちが、採取した生き物をそれぞれ見せ合ったところ、多くの生き物が確認でき、在来種以外に、多くの外来種がいることも確認されました。



逆川での生き物採取



見つけた生き物の観察

確認できた生き物	在来種	外来種
	ウグイ、タモロコ、モツゴ、ドジョウ、ヌマチチブ、ヨシノボリ、ウキゴリ、ミナミメダカ、ニホンナマズ、テナガエビ、スジエビ、モクズガニ、ヌマエビ など	ブルーギル、ウシガエル（オタマジャクシ含む） など

あいさつ及び提供品等にご協力いただき、ありがとうございました。

飲み物：株式会社 ジーエスケー茨城様

消毒スプレー他：花王株式会社 鹿島工場様、東部燃焼 株式会社様

桜川でサケの卵を調べました

～第8回千波湖環境学習会～

11月27日に第8回千波湖環境学習会を開催しました。今回のテーマは、毎年恒例となっている「桜川でサケの卵を調べよう」でした。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の心配はありましたが、無事に開催することができました。当日は天気にも恵まれ青空が広がり、少し風は冷たかったですが、気持ちの良い日差しを受けながら学習会を行うことができました。また、今回の学習会は普段学習会を行っている千波湖の親水デッキではなく、水戸市役所への集合となり、参加は約120名でした。

はじめに、毎年恒例となっているクイズを行いました。今回のクイズは、学習会のテーマにもなっているサケについてでした。サケに関わる簡単な問題からサケの生態についての難しい問題まで様々な問題を出題し、子供達に答えてもらいました。子どもたちは元気良く、一所懸命に答えてくれました。クイズの景品は、人気キャラクターのミニポーチでした。



真剣にクイズに取り組む参加者

クイズ終了後、桜川に遡上してくるサケはどこから来ているのか、過去にどれくらいの数のサケが遡上してきたのかなど、わかりやすく説明をしてもらい、参加者は興味深く聞き入っていました。そして、桜川におけるサケの説明が終わり、市役所から桜川的美都里橋まで歩いて移動していきました。



子どものモクズガニが取れました

川の水は、冬の時期ということもあり、とても冷えていましたが、子どもたちは川の中に入って、元気に水生生物の採取を行っていました。今回は、ハゼの仲間であるヨシノボリとヌマチチブやモツゴ、モクズガニ、スジエビ、テナガエビ等が採取でき、最後に採取できた水生生物についての説明を行いました。

桜川の中に入る前に、講師から桜川に入る際の注意事項や採卵の方法について説明を受けました。しかし残念ながら、本年度も学習会までにサケの遡上を確認出来なかったため、予定を変更して、水生生物の観察を行いました。



解説に聞き入る参加者

提供品等ご協力をいただきました、ありがとうございます。

飲み物：いばらく乳業株式会社様

お菓子：東部燃焼株式会社様

千波湖の「渡り鳥」を調べよう

～第9回千波湖環境学習会～

2023年1月22日（日）に、年明け最初となる第9回千波湖環境学習会を開催しました。今回のテーマは「千波湖の渡り鳥を調べよう」ということで、双眼鏡を使用した渡り鳥や野鳥の観察が行われました。新型コロナウイルスに加えて、鳥インフルエンザのニュースも流れる中、感染対策に十分配慮し予定通り開催することができました。当日は、寒波が来ると再三言われておりましたが、比較的穏やかな陽気の中で開催することができました。

この日の講師は、日本野鳥の会の会員で、逆川こどもエコクラブのメンバーとして幼稚園の頃から千波湖環境学習会に参加してきた高校2年生の飛田泰寛氏が父親の憲一氏と二人で担当してくださいました。双眼鏡を参加者に配布した後、飛田講師による双眼鏡の解説が行われ、ピントの合わせ方や、太陽を見てはいけない等の注意事項の説明の後、親水デッキから見える渡り鳥の観察からスタートしました。

ドバトの群れが上空を旋回しているのを双眼鏡で追いかけてみたり、近くまで寄ってきたハクチョウやカルガモを眺めたりしました。

双眼鏡を使うと、肉眼では見えない遠くの渡り鳥たちを観察することができ、参加者の大人も子どもも楽しんでいる光景が印象的でした。



双眼鏡でカモを観察する参加者

普段意識していない渡り鳥たちを、解説付きで観察してみると知的好奇心が刺激される感覚を味わうことができました。

「どこかに渡り鳥はいないかな」「あの鳥の名前はなんだろう」大人も子どもも楽しそうに双眼鏡を使って観察を続けていると、飛田講師から場所を移動する話があり、参加者は講師と一緒に千波湖をぐるりと回り、近くの森へ足を踏み入れました。



講師としてマイクを握る飛田講師

（左：憲一氏 右：泰寛氏）

ハクチョウやカモたちは人慣れしている様子で、すぐ近くまで寄ってきてくれるのでとても観察しやすく、子どもたちにとって双眼鏡を使う良い練習対象になりました。

中には、餌をめぐってか、喧嘩を始めるカモもあり、それを参加者の子どもたちがなだめようと声をかける微笑ましいシーンもありました。

千波湖の親水デッキやその周囲から、湖の中に向けて双眼鏡を覗くだけでも色々な鳥を見つけることができました。



森の中で鳥を探しながら歩く参加者

「このように、森の中では鳥を見つけることがとても難しいです。ですから、こういう場合は音で探します。皆さん、耳を澄ませてみてください」

その言葉に、参加者はそっと音に集中しました。最初は風の音や誰かの足音程度しか聞こえてこない森の中でしたが、次第に「聞こえた」と嬉しそうな声が参加者から出てきました。

確かに、耳を澄ましてみれば小さな「チュンチュン」という声や、「ピィィィ」と鋭い声が聞こえてきます。いったいどこにいたのだろうと声のした方向を探してみると、先ほどまで全然見つけられなかったヒヨドリを見つけることができました。

森を抜けて、親水デッキに戻ると、今度は全員で見つけた野鳥の種類を確認する時間となりました。用意したチェック項目の中で、双眼鏡や耳を使って確認することのできた野鳥にチェックしました。

今回の学習会では、千波湖周辺で観察することのできる鳥の種類について学ぶことができました。さらに、飛田講師によると鳥は『留鳥』『夏鳥』『冬鳥』『旅鳥』に分けられるそうで、季節によって見られる種類も変わるそうです。色んな時期の鳥を観察してみるのも面白いかもしれませんね。



見つけた鳥にチェックを入れる

提供品等ご協力をいただきました、ありがとうございます。

消毒スプレー：花王株式会社様

お菓子：東部燃焼株式会社様

ボールペン：株式会社ユーゴー様

双眼鏡・単眼鏡：茨城県霞ヶ浦環境科学センター様

桜川に遡上するサケについて学びました ～第10回千波湖環境学習会～

当協会では、水戸市との協働事業として、体験しながら環境問題について考える「千波湖環境学習会」を開催しています。2022年度最終回の第10回は、「卵からふ化したサケの稚魚を桜川に放流しよう」をテーマに2月5日（日）に、新型コロナウイルス感染症対策を十分に実施した上で開催しました。天候にも恵まれ、101名の方々が参加されました。

当日は、千波湖好文カフェ前の親水デッキでの開会式の後、まず、サケクイズで桜川に遡上するサケについて学習しました。サケの稚魚が海へ出てからどこへ向かうのか、産卵のため何年でふるさとの川に戻ってくるのかなどの質問に子供たちは元気に手を挙げて答えていました。

近年サケの来遊数は海水温上昇などの影響を受け全国的に減少しており、2022年は特に本州太平洋側で少なく、桜川でも遡上はほとんど確認されませんでした。そんな中、一般社団法人岩手県さけ・ます増殖協会様よりサケの卵をご提供いただき、ふ化させました。今回の学習会では、放流するには稚魚の生育がまだ不十分だったため、放流の代わりに参加者たちに稚魚を持ち帰ってもらい育ててもらうことになりました。子供たちは一匹ずつ稚魚を容器に受け取り、育て方を教わりました。十分大きく育ったサケはアクアワールド茨城県大洗水族館様で展示されます。



サケクイズに答える子供たち



興味深げに稚魚に見入る子供たち

2022年度の学習会は、全10回で延べ約2,008名の参加者があり、多くの皆様に千波湖周辺の環境について、体験を通じて楽しく学習していただけたものと思います。学習会の運営のため、講師としてご協力、飲み物等の提供やスタッフとしてご協力を頂きました事業所等の皆様には、心より感謝申し上げます。

2022年度の学習会は、全10回で延べ約2,008名の参加者があり、多くの皆様に千波湖周辺の環境について、体験を通じて楽しく学習していただけたものと思います。学習会の運営のため、講師としてご協力、飲み物等の提供やスタッフとしてご協力を頂きました事業所等の皆様には、心より感謝申し上げます。

今回、提供品等ご協力をいただきました、ありがとうございます。

消毒スプレー：花王株式会社様

お菓子：東部燃焼株式会社様、飲料：有限会社元クリーン様

2022年度千波湖学習会の協賛事業所（敬称略）ご協力いただきありがとうございました。

- ・(有)アルファサービス ・(株)いばらき環境改善 ・茨城生物の会 ・いばらく乳業(株)
- ・いばらきコープ生活協同組合 ・(株)エコツアー技術研究所 ・econet いばらき
- ・花王(株)鹿島工場 ・環境ウィザード(株) ・逆川こどもエコクラブ ・サラヤ(株)
- ・(株)ジーエスケー茨城 ・大東建託(株) ・中央技術(株) ・東部燃焼(株)
- ・(有)沼田クリーンサービス ・根崎解体工事(株)水戸リサイクルセンター ・(株)ノーブルホーム
- ・(有)元クリーン ・(株)フットボールクラブ 水戸ホーリーホック ・丸太建設(株)
- ・一般財団法人水戸市公園協会 ・水戸ヤクルト販売(株) ・学校法人緑丘学園水戸英宏小中学校
- ・(株)ユーゴー（クリーニング専科） ・(有)リビング館ホンダ